

土木交通委員会 説明資料

東山動植物園再生プラン
について

令和元年12月2日

緑政土木局

東山動植物園再生プランについて

目 次

	頁
1 東山動植物園再生プラン新基本計画の概要-----	1
2 第二期までの総括-----	3
3 第三期の事業内容-----	1 1

1 東山動植物園再生プラン新基本計画の概要

(1) 目標

「人と自然をつなぐ懸け橋へ」

(2) 動植物園の役割

- ・ 動植物を見て楽しむ
- ・ 楽しみながら学ぶ
- ・ 野生生物を守る
- ・ 調査研究を行う

(3) 対象区域

なごや東山の森（東山公園・平和公園） 約400ha

(4) 展開内容

- ・ 15のゾーンで構成し生態的な展示や行動展示など多様な展示を展開
- ・ 市民や企業など多様な参加・協働の推進
- ・ にぎわいのある快適な空間の創出
- ・ 経営感覚を持った管理運営

(5) 想定全体事業費

約350億円

(6) 年間目標入園者数

350万人

(7) 計画期間等

- ・開園100周年を迎える令和18年度まで
- ・概ね5年ごとに事業計画の見直しを実施

期	期 間	備 考
先行期	平成19年度～平成21年度	基本計画
第一期	平成22年度～平成26年度	新基本計画
第二期	平成27年度～令和 元年度	
第三期	令和 2年度～令和 6年度	
第四期	令和 7年度～令和11年度	
第五期	令和12年度～令和18年度	

2 第二期までの総括

(1) 主な実績

ア 整備内容

期	年 度	内 容
先行期	平成 20 年度	チンパンジータワー、東海モデル林 桜の回廊、地域の自然学習林
	平成 21 年度	ニホンザル舎、ゾウガメ舎 メダカ館、くらしの森
第一期	平成 22 年度	アメリカバイソン舎、カナダヤマアラシ舎 オグロプレーリードッグ舎
	平成 23 年度	フクロテナガザル舎、シンリンオオカミ舎 バードホール、トイレ（アクシスジカ横）
	平成 24 年度	花園橋、トイレ（洋風庭園・お花畑休憩所）
	平成 25 年度	アジアゾウ舎、ハクトウワシ舎 ツシマヤマネコ舎 飲食・物販施設（上池パレット） ガーデンテラス東山
	平成 26 年度	休憩所（アジアゾウ舎前）
第二期	平成 27 年度	中央休憩所、飲食施設（ゾアシス） 飲食・物販施設（ズーボゲート）
	平成 28 年度	トイレ（正門・椿園）
	平成 29 年度	トイレ（コアラ舎横・夢園橋横） うるおいの森
	平成 30 年度	ゴリラ・チンパンジー舎
	令和元年度	休養広場（アシカ舎横）

(注) 令和元年度は実績見込み

イ 歴史文化的施設の保全及び活用

区 分	内 容
恐 竜 像	破損部分の補修及び耐震補強を実施し、歴史的資産として保存
東山モノレール	車両を産業遺産モニュメントとして保存
温室（前館）	耐震補強を実施し、重要文化財としての保存修理工事を引き続き実施中
合掌造りの家	耐震補強を実施し、日本文化を現代に伝える施設として保存・活用

ウ 環境教育・調査研究・種の保存

区 分	内 容
環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の生態や生息地域の自然・文化を学ぶことのできる解説板や展示装置の設置 ・環境教育プログラムの実施と拡充 ・メダカ里親プロジェクトの実施 ・動物会館を改修し、環境教育の拠点として活用
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ・連携する大学との共同研究 ・イタセンパラなどの生息地調査 ・チンパンジーやメダカに加えツシマヤマネコなど研究対象動物の拡大 ・伊藤圭介の日記解説と所蔵資料を活用した情報の発信
種の保存	<ul style="list-style-type: none"> ・アジアゾウ、ニシゴリラ、チンパンジー、ツシマヤマネコ、イタセンパラなどの絶滅危惧種の繁殖 ・マメナシ、シデコブシ、ヒトツバタゴなど東海地方の固有植物種の保存

エ にぎわいのある快適な園内空間の創出

区 分	内 容
楽しみのある 空間づくり	・民間活力を導入した、飲食や物販などの営業施設の設置
清潔で快適な 空間づくり	・トイレの新築及び改修 ・空調機能付き休憩所の整備
バリアフリーの 空間づくり	・多機能トイレや車いす利用者用トイレの整備 ・園路整備による段差の解消 ・移動施設の試験運行を実施（植物園）

オ 管理運営

区 分	内 容
来園者 サービスの 充 実	・春まつりやナイトZOOなど各種イベントの実施 ・ホームページでの駐車場情報の配信
市民等の 参加や 協働の推進	・園内ガイドや花壇管理などの運営におけるボランティア活動への参加促進 ・花いっぱいプロジェクトへの企業等の参加促進 ・地域と連携して桜の回廊フェスティバルを実施
広報の充実 及 び 集客対策	・フェイスブックやツイッターなどSNSの活用 ・マナカによる入園券購入窓口の設置 ・コンビニエンスストア等でのチケット販売の拡充
財政基盤の 確 立	・民間営業施設における許可使用料や売り上げに応じた還元金の徴収 ・寄附金、協賛、広告などの企業参画の促進 ・「東山動植物園みんなで応援募金」やふるさと納税制度の活用

カ 東山の森づくり

森づくり活動団体との連携による雑木林等の保全活動や環境学習などのワークショップの実施

(2) 事業費

先行期	第一期	第二期
百万円	百万円	百万円
2, 120	3, 276	5, 527

(3) 入園者数の推移

期	年 度	入園者数	備 考
先行期	平成 19 年度	2,319,341 ^人	開園 70 周年 ナイト ZOO 開始
	平成 20 年度	2,201,822	チンパンジータワー完成
	平成 21 年度	2,284,853	ハートフルナイト初開催
第一期	平成 22 年度	2,180,296	アメリカバイソン舎オープン
	平成 23 年度	2,025,336	フクロテナガザル舎オープン
	平成 24 年度	2,079,896	ナイト ZOO 休止 (2 年間)
	平成 25 年度	2,228,650	アジアゾウ舎オープン 第一期営業施設オープン 紅葉ライトアップ開始
	平成 26 年度	2,271,248	ナイト ZOO 再開
第二期	平成 27 年度	2,583,986	第二期営業施設オープン
	平成 28 年度	2,408,400	高病原性鳥インフルエンザ発生
	平成 29 年度	2,600,684	開園 80 周年
	平成 30 年度	2,542,037	ゴリラ・チンパンジー舎オープン
	令和元年度	1,228,528	

(注) 令和元年度の入園者数は 9 月末現在の人数

(4) ネット・モニターアンケート

ア 回答数

平成26年度	平成30年度
名 466	名 427

イ 主な結果

東山動植物園再生プランによる動植物園の魅力向上について

区 分	平成26年度	平成30年度
魅力が向上していると思う	23.2 %	25.8 %
どちらかといえば 魅力が向上していると思う	49.8	51.1
どちらかといえば 魅力が向上していないと思う	2.8	4.4
魅力が向上していないと思う	3.4	2.6
わからない	20.8	16.2

ウ 主な意見

- ・幅広い年代が楽しめる、何度も行きたくなる動植物園にしてほしい。
- ・休憩施設・飲食施設等を充実してほしい。
- ・様々なイベントを開催してほしい。
- ・園内の移動施設がほしい。
- ・駐車場を増やしてほしい。

(5) 東山再生フォーラム開催時のアンケート

ア 主な結果

東山動植物園の「総合的な満足度」と「快適さ」について

年 度	実施回数	「満足」の 回 答 割 合	「快適」の 回 答 割 合
平成27年度	3 回	71.7 %	63.0 %
平成28年度	2	78.5	64.5
平成29年度	2	82.0	75.5
平成30年度	2	87.3	80.8
令和元年度	1	87.8	76.2

イ 主な意見

- ・ 快適な休憩所を整備してほしい。
- ・ 動物の飼育環境を整えてほしい。
- ・ 動植物の特徴などが学べる展示の整備や説明をしてほしい。
- ・ 案内看板を充実してほしい。
- ・ もっと動物と触れ合いたい。
- ・ 飼育員さんのお話をもっと聞かせてほしい。

(6) 今後の課題

これまでは、展示施設の整備に加えて、来園者からの要望が多かった飲食・物販などの営業施設や、トイレや休憩施設の整備など、賑わいや清潔で快適な空間を創出するための施設整備を重点的に実施してきており、概ね当初の計画どおりに事業が進捗している。その結果、来園者数は増加し、アンケートにおいても評価は良好であることから、事業の成果が着実に現れている。

一方で、少子高齢化の進行や、グローバル化の進展、価値観の多様化など社会情勢が変化する中で、さらなるバリアフリー対策や、外国人旅行者への対応、雨天・酷暑対策等の必要性や環境教育を始めとするソフト施策の充実などの課題も出てきた。

そのため、今後は、引き続き展示施設の整備を進めるとともに、これらの課題解決に向けて取り組む必要がある。

3 第三期の事業内容

(1) 概要

第二期までの総括を踏まえ、今後、さらなる魅力向上を図り、再生プランの目標とする入園者数350万人を目指していくために、第三期は、何度も訪れたくなるような多様な魅力を持つ動植物園に向けて、ハード・ソフト両面から取り組んでいくことを重点テーマとし、次の4つの方針により再生プランを推進していく。

- ① 魅力ある展示施設の整備による満足度の向上
- ② 来園者の利便性や快適性の向上
- ③ 動植物を通じた環境教育の充実
- ④ 希少動物の導入と繁殖による種の保存機能の向上

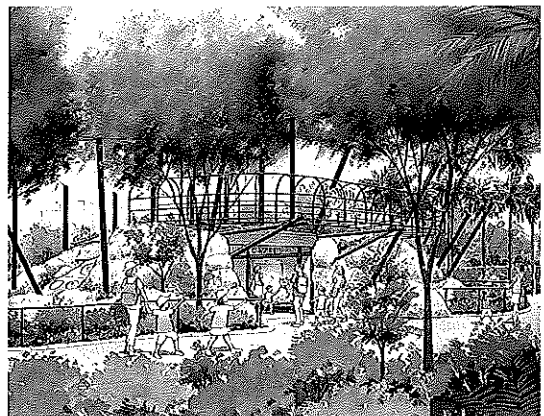
(2) 主な事業内容

ア 展示施設の整備

(ア) アジアゾーン

a アジアの熱帯雨林エリア

熱帯雨林に生息するトラやオランウータンなどが、三次元的に動く姿を同じエリアにて観察することができる展示施設を引き続き整備するほか、インドネシアで特に希少とされているコモドオオトカゲの導入に向けた整備を進める。



アジアの熱帯雨林エリア展示イメージ

b アジアの高地エリア

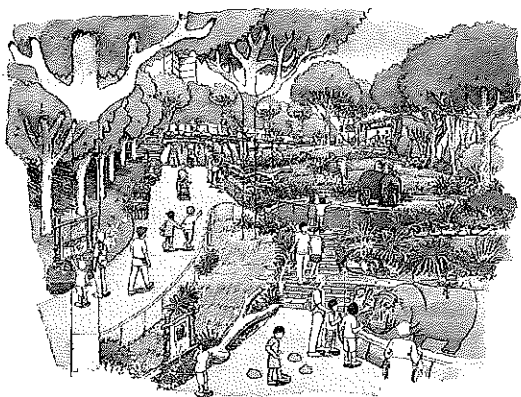
レッサーパンダやユキヒョウなど、標高が高い地域に生息する動物の生態や、生息環境の違いについて伝えることができる展示施設を引き続き整備する。

(イ) アメリカゾーン (南アメリカエリア)

南アメリカにおいて生態系の頂点に位置するジャガーについて樹上で生活する姿や水中での行動を観察することができる展示施設を整備する。

(ウ) アフリカゾーン (サバンナエリア)

キリンや、シマウマ、ライオンなど、エサとなる植物を食べ分ける草食動物の棲み分けや肉食動物との食物連鎖の関係を伝えることができる展示施設を整備する。



アフリカゾーン展示イメージ

(エ) オセアニアゾーン

コアラや、カンガルー、ウォンバットなど、独自の進化を遂げたオセアニアの動物の形態的特徴 (有袋類等) を知ることができるような展示施設の計画を策定する。



オセアニアゾーン展示イメージ

(オ) 花と緑のふれあいゾーン (お花畑)

市民や企業との連携による花壇づくりを実施しているお花畑について、四季を通じてより多くの人が集い・にぎわう、新たな魅力あるエリアを整備する。

(カ) 世界の植物と文化ゾーン

a 温室前館

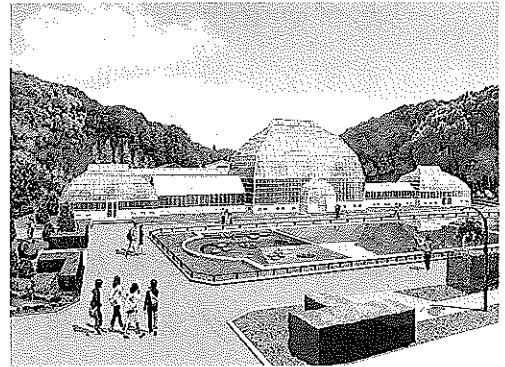
温室前館の重要文化財としての価値と魅力を広く市民に伝えるため、温室の歴史に触れ、植物と建物が調和した美しい空間を体感できる展示施設を整備する。

b 温室後館

温室前館と一体となって、保有コレクションの活用と展示を充実させ、植物を通じた環境教育やくつろぎの場として、温室後館及び周辺エリアを整備する。

c 洋風庭園

温室前館の姿を水面に映し出す水鏡や、パラグアイオニバスを展示するスイレン池、高低差を生かした段滝など、温室と調和した美しい幾何学式庭園を整備する。



洋風庭園の整備イメージ

(キ) 新たな展示手法

より自然に近い動物の生態を観察することができるサファリ形式の展示や、動植物とのふれあい体験や環境教育機能をより充実させた展示、雨天時も快適に観覧できる展示など、東山動植物園の新たな魅力に繋がる展示手法について導入を図る。

イ 歴史文化的施設の保全及び活用

(ア) 重要文化財温室前館

「現存する日本最古の公共温室」である温室前館について、昭和11年の建設当初の姿に復原するための保存修理工事を完了し、歴史ある植物園のシンボルとして保全・活用する。

(イ) 正門の門柱・胡蝶池とケヤキの木に囲まれた噴水

開園当初から東山動植物園の顔として広く市民に親しまれてきた門柱等を、正門エントランスゾーン整備にて保全・活用する。

ウ 環境教育・調査研究・種の保存

(ア) 環境教育

・来園者に動植物をとおして、「いのち」や「自然環境」の大切さを

感じとってもらい、一人ひとりの環境を守る行動が誘起されるよう環境教育をすすめる。

- ・絶滅危惧種の生態や現状について積極的に発信するとともに、動植物を通して生息地域の文化などを知る機会を提供する。
- ・新たに動物の福祉に配慮しながら、来園者の多様なニーズに対応したプログラムを実施する。
- ・重要文化財温室前館において、熱帯植物の形態を見比べる展示を充実させるとともに、洋風庭園においては、水生植物の生態的特徴の分かる展示を実施し、環境教育の場として活用する。
- ・動物や植物を見ながら、園内スタッフによる解説を聞いて学べるガイドプログラムを更に充実させる。

(イ) 調査研究

- ・他園や大学等との連携により、動植物の基礎資料の収集や飼育・栽培技術の向上、種の保存の研究を実施する。
- ・名古屋出身で日本初の理学博士である伊藤圭介の日記解読研究を継続するとともに、関連資料を活用して、植物学における功績を発信する。

(ウ) 種の保存

- ・国内外の動物園や環境省などと連携し、飼育繁殖技術の向上に努め、希少動物の導入や繁殖に取り組む。
- ・東山の森に生息するカスミサンショウウオやホトケドジョウの保全を図る。
- ・東海地方固有植物の保存をはじめ、国内外他地域固有種の生息域外保全、国内希少野生植物種であるアマミデングヤナガミカズラ、ランの原種などといった貴重な植物の保存展示を図る。
- ・高病原性鳥インフルエンザなど園内の動物に発生する様々な傷病に対応するため、既設の動物病院を改築する。
- ・動植物の生息地の保全活動に貢献するとともに、その活動の情報を発信する。

エ にぎわいのある快適な園内空間の創出

(ア) 歴史を大切にする空間づくり

来園者を最初に出迎え、東山動植物園への期待感を高める正門エントランスゾーンにおいて、歴史的資産である門柱等を保全・活用し、美しい景観を形成するとともに案内機能の充実などによる利便性の向上を図る。

(イ) 楽しみのある空間づくり

新たに民間活力を導入した魅力ある飲食・物販施設の計画を策定する。

(ウ) 清潔で快適な空間づくり

a 情報提供サービス（ITの活用）

- ・インバウンドを含め来園者の利便性向上のため、園内情報の多言語対応やキャッシュレス決済などのサービスを導入する。
- ・QRコード等を活用した新たな手法により、動植物の情報や園内イベント情報などをタイムリーに発信する。

b 植栽・サイン

- ・展示ゾーンの雰囲気高め、来園者に緑陰を提供するなど、緑の機能を積極的に活用し、植栽による美しい園内景観の再生を進める。
- ・サインの劣化や乱立等を踏まえ、デザインの統一化と機能の整理、設置場所の特性に応じた効果的なサイン計画を策定し整備する。

c 休憩施設・広場

空調設備付き休憩所の整備や芝生広場、遊具広場など観覧途中の憩いの場を整備し、家族連れを始め多様な来園者が快適に過ごせる園内空間を提供する。

(エ) バリアフリーの空間づくり

a 園内移動施設

- ・ 温室前館及び洋風庭園の整備にあわせて、植物園内に電動カートを導入する。
- ・ 高低差のある広大な園内を、来園者の誰もが快適に移動できるようにするため、園全体における新たな移動施設の導入を図る。

b 駐車場

乗降場の整備や、点在する駐車場の配置、各入園門までのアクセス向上など、駐車場の全体計画を策定し、順次整備を進める。

オ 管理運営

(ア) 来園者サービスの充実

- ・ ホスピタリティを向上し、おもてなしの心を持って来園者に接遇するとともに、家族連れや高齢者、障害者、国内外からの観光客など多様な来園者のニーズに対応できるようサービスの充実を図る。
- ・ 春まつりなど四季に応じたイベントを開催するとともに、閑散期の来園者対策としてにぎわいを創出するイベントを企画するなど、魅力的な年間運営に努める。
- ・ 季節や場所に応じて、写真映えのする魅力的な撮影スポット等の情報提供をする。

(イ) 安全で快適な施設の提供

- ・ 動植物園の安全・安心、快適な園内環境の保全を図るため、電気設備や給排水管のインフラ設備について、老朽化の状況を踏まえて順次更新する。
- ・ 樹木や芝生等の植栽管理を生育状況や立地状況に応じて適切に行い、安全と美観を提供する。

(ウ) 市民等の参加や協働の推進

- ・ 動植物や人と人とのふれあいを通じた喜びを実感できる園内ガイドなどの市民ボランティア活動を継続する。
- ・ 清掃活動や園内イベントの運営など、企業・団体等との協働を推進する。

(エ) 広報の充実及び集客対策

- ・ SNSを活用した広報活動を行う。
- ・ 小中学校へのPR活動をはじめ、首都圏、関西圏など他の大都市圏における観光誘客活動を拡充する。
- ・ キャッシュレス決済の導入など、チケット購入サービスの充実化を図る。

(オ) 財政基盤の確立

- ・ 企業等の社会貢献へのニーズに沿った寄附メニューの提案や、効果的な情報発信を行い、より多くの寄附金や企業参画を獲得する。
- ・ 寄附金や協賛金を有効にするため、基金の設置に向けた検討を進め活用を図る。

(3) 東山の森づくり

次世代に身近な自然のすばらしさや大切さを伝えていけるよう、雑木林や湿地などの保全や再生活動、環境学習や体験学習等を森づくり活動団体と連携して継続的に実施し、東山の森づくりを推進する。

(4) 周辺地区の活性化、まちづくり

地域の企業・大学等と協力して一体感のある催事やおもてなしの演出を行うなど、周辺地区と連携しながらにぎわいづくりを進める。

(5) 再生プランの推進に要する事業費

様々な財源を確保しながら約100億円と想定している。

(6) スケジュール案

事 項	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
展示施設の整備					
アジアゾーン (アジアの熱帯雨林エリア)	工事 (トラ・オランウータン)				
	設計		工事		
			(コモドオオトカゲ)		
アジアゾーン (アジアの高地エリア)	工事 (レッサーパンダ)				
	設計		工事		
			(ユキヒョウ)		
アメリカゾーン (南アメリカエリア)			工事		
アフリカゾーン (サバンナエリア)			設計		工事
花と緑のふれあいゾーン (お花畑)	設計	工事			
世界の植物と文化ゾーン (温室後館)		設計		工事	
世界の植物と文化ゾーン (洋風庭園)	工事				
歴史文化的施設の保全及び活用					
重要文化財温室前館	工事				
正門門柱・胡蝶池・噴水	正門エントランスゾーン整備にて保存・活用				
環境教育・調査研究・種の保存					
ガイドプログラムの実施・拡充等	実施				
動物病院の改築	工事				

事 項	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
にぎわいのある快適な園内空間の形成					
正門エントランスゾーン			設計	工事	
園内移動施設	公募 (植物園内)		公募又は設計	工事 (園全体)	
駐車場計画の策定・整備等	実施				
管理運営					
インフラ設備の更新等	実施				
東山の森づくり					
市民等との協働による森づくり	実施				

(7) 主な事業箇所図

